

観光地経営会議の役割と進め方

2023/7/18 第1回白馬村観光地経営会議



1. 観光地経営会議の役割

1-1 観光地経営会議とは？

これまでの「観光地経営会議」

■ 観光計画の進捗管理を目的に発足

- ✓ 「白馬村観光地経営計画（2016-2026）」の進捗管理を担う組織として2018年に発足。
- ✓ 構成メンバーは、策定委員会の委員やワーキンググループ委員を基に編成した15名。
- ✓ 計画の進捗管理をおこないながら、不足していた「計画推進の基盤となる統計の整備」や「観光地経営指標」の整備・充実を図ってきた。

経営判断に資する統計データや指標の整備に注力



これからの「観光地経営会議」

■ コロナ禍を経て、観光を取り巻く環境は変化

- ✓ 国内外の競合する観光地のなかで白馬村が観光地として勝ち残るためには、観光地としての経営判断をスピーディかつ適正に行う新たな組織（ステアリングコミッティ）が求められている。

■ 新たな組織体制への変革

- ✓ 観光地経営計画の推進を図る中で、より施策やプロジェクトの実効性の高めるためには、客観的なデータ（観光統計、事業評価等）に基づく高度な経営判断を行う組織体制へ変わる必要がある。

■ 観光財源の用途決定のスキームづくり

- ✓ 今年度の観光地経営会議では、会議の役割などそのあり方を見直し、令和8年度に導入が検討されている観光財源の「用途決定のスキーム（方法）」の検討をおこなう。

1. 観光地経営会議の役割

1-1 観光地経営会議とは？

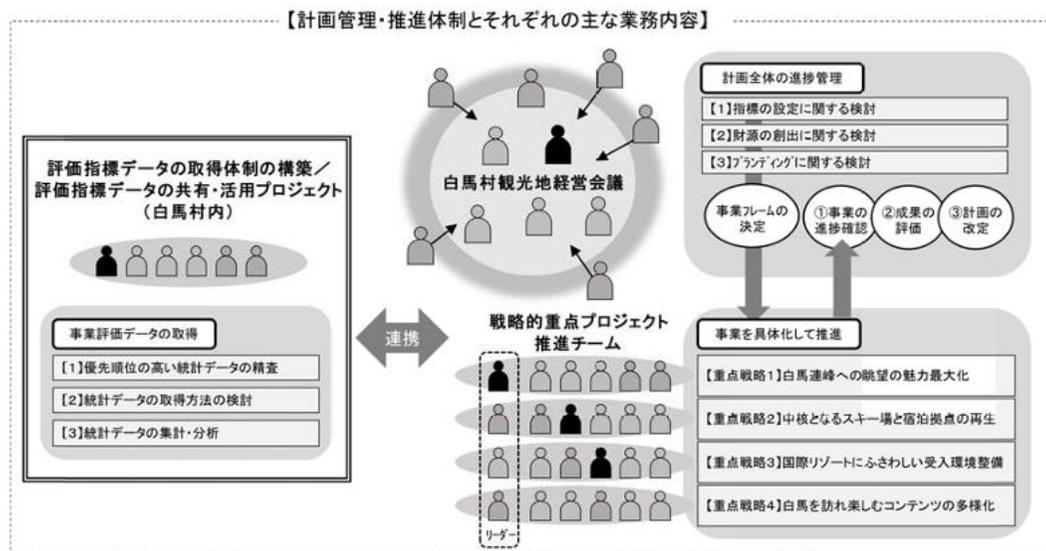
これまでの「観光地経営会議」

■ 推進体制の現状

- ✓ 白馬村では、平成26～27年（2014～2015年）に掛けて、観光地を経営するといった地域経営的な視点を取り入れた「**白馬村観光地経営計画（計画期間：2016-2025）**」を策定し、白馬村が観光地として目指すべき姿や進むべき道、実施すべき施策・プロジェクト等を明らかにした。
- ✓ 平成28～29年度（2016～2017年度）には、本計画の進捗管理を担う「白馬村観光地経営会議」が発足し、本計画において行政に求められる重要な役割である「計画推進の基盤となる統計の整備」や「観光地経営指標」の整備・充実を図った。

■ 推進体制の課題

- ✓ 観光地経営会議では、これまでの、計画の進捗管理に必要な統計や指標整備などを中心に検討を進めてきた。
- ✓ しかし客観的な観光統計データ等に基づく高度な経営判断には至っていない。



1. 観光地経営会議の役割

1-1 観光地経営会議とは？

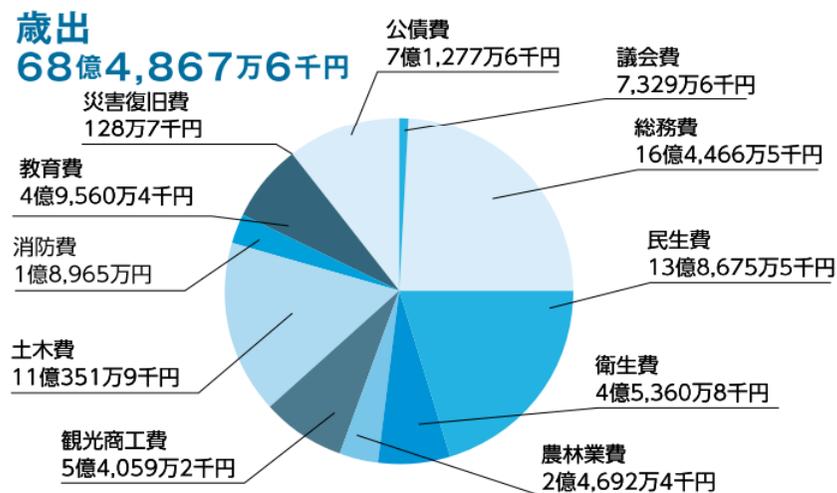
これまでの「観光地経営会議」

■ 観光財源の現状

- ✓ 白馬村の令和3年度（2021年度）の決算状況をみると、**観光商工費は5億4,059万円となっており、歳出（68億3,867万円）の7.9%を占める**。白馬村の観光振興にかかる予算は、観光商工費にとどまらず、土木費の中に含まれる除雪費や景観整備費などを合わせると、村財政への負担は大きい。

■ 観光財源の課題

- ✓ 今後、人口減少・少子高齢化が進行するなか、観光振興に充てられる財源は加速度的に減少していく。将来においても白馬村が観光地で在り続けるためには、安定的な観光財源の確保が不可欠だ。
- ✓ そこで受益者負担による新規財源の検討を行うことを目的に平成30年（2018年）4月に「白馬村観光振興のための財源確保検討委員会（会長：東京大学/下村彰男教授）」を設置し、新たな財源（入湯税の見直し、宿泊税、環境協力金等）のあり方について検討を重ねてきた（今後も委員会は継続）。



出所：「令和3年度白馬村の決算状況」
<https://www.vill.hakuba.lg.jp/material/files/group/2/R3kessan.pdf>

1. 観光地経営会議の役割

1-1 観光地経営会議とは？

これからの「観光地経営会議」

■これからの観光財源

- ✓ 二次交通などの「受入環境整備」や「宿泊産業の活性化」など以前からの課題に加え、コロナ禍を経て、「持続可能な観光地経営」や「観光リスクマネジメント」など、重要度が増した課題もあり、新たな財源確保が求められている。
- ✓ 白馬村では、新たな観光財源の確保にむけて、「財源確保検討委員会」で具体的な財源の検討を進めており、今年度中（遅くとも次年度上期）には方向性が固まる予定だ。

■観光財源の用途決定組織の組成にむけて

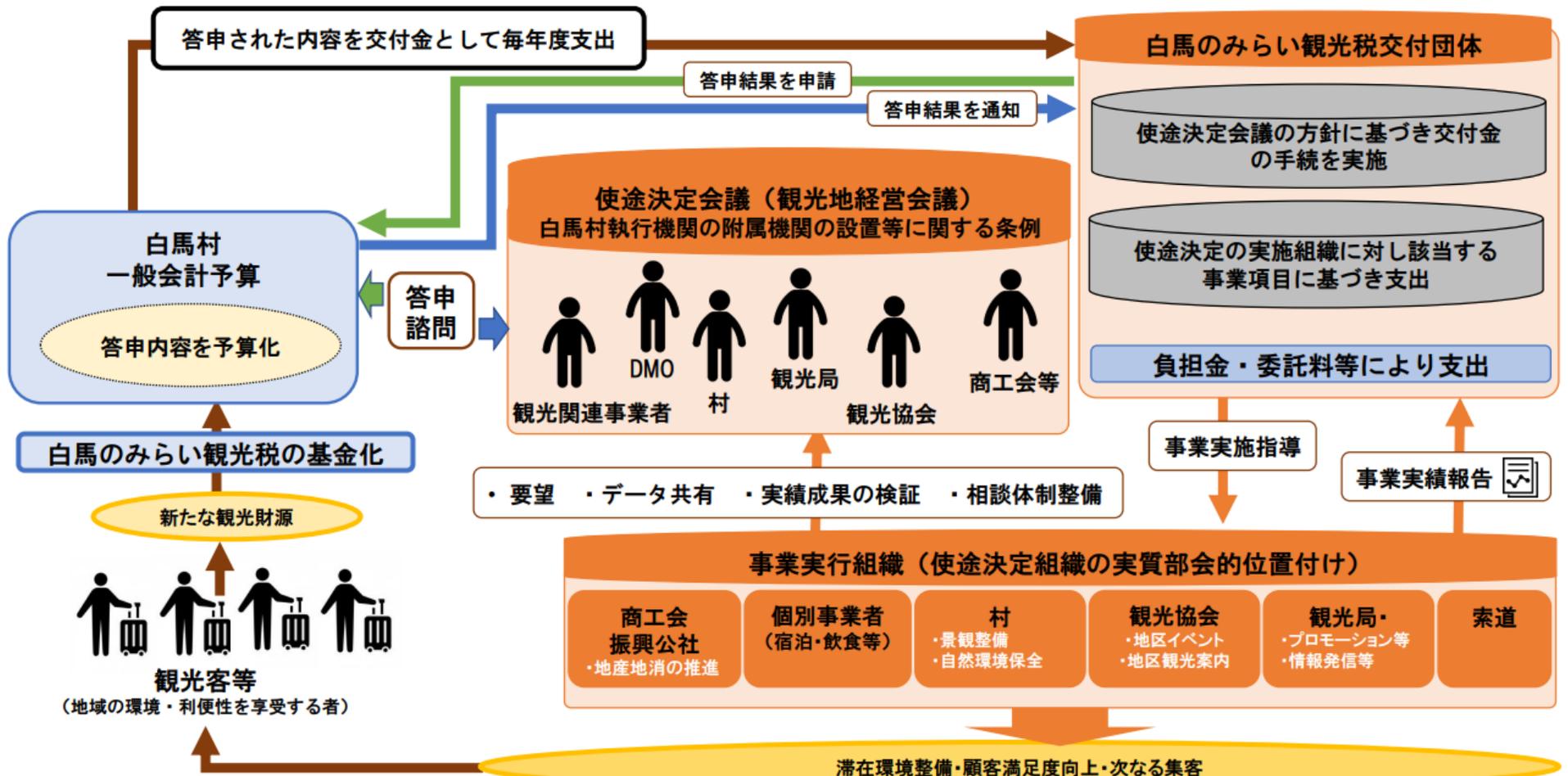
- ✓ 現在の観光地経営計画（2016-2026年度＝10年間）の計画期間は残り3年である。来年度、観光地経営会議ではこれまでの施策やプロジェクトの評価・検証を進め、再来年度には次期「観光地経営計画（2027-2036年度）」の策定を担う予定だ。
- ✓ 令和8年度（2027年度）の次期計画スタートとともに、新たな観光財源の導入が見込まれている。今年度は、観光財源の用途決定のスキーム（方法）を検討する。



1. 観光地経営会議の役割

1-2 新たな観光地経営会議（イメージ）

新たな観光財源（＝白馬のみらい観光税）（案）



2. 観光地経営会議の進め方

2-1 観光地経営会議のスケジュール（今年度）

	日時／場所	次第	配付資料
第1回 観光地 経営会議	7月18日（火） ・時間：10:00～11:40 ・会場：白馬村役場 201・202会議室	1) 開会 2) 挨拶 3) 協議事項 ・会長及び副会長の選任 ・観光地経営会議に役割 4) 意見交換 5) その他 6) 閉会	【資料0】次第 【資料1】委員名簿 【資料2】白馬村観光地経営会議設置要綱 【資料3】後期計画の進捗状況 【資料4】観光地経営会議の役割と進め方（案） 【参考資料】「白馬村観光地経営計画」冊子
第2回 観光地 経営会議	9月〇日（〇） ・時間 00:00～00:00 ・会場：〇〇〇〇〇	1) 開会 2) 挨拶 3) 協議事項 ・観光財源の用途決定組織の提案 ・観光財源の用途に関する方針の提案 4) 意見交換 5) その他 6) 閉会	【資料0】次第 【資料1】委員名簿 【資料2】観光財源の用途決定組織（案） 【資料3】観光財源の用途に関する方針（案） 【資料4】【参考資料】前回議事録
第3回 観光地 経営会議	11月〇日（〇） ・時間 00:00～00:00 ・会場：〇〇〇〇〇	1) 開会 2) 挨拶 3) 協議事項 ・観光財源の用途決定組織の組成 ・観光財源の用途に関する方針の決定 4) 意見交換 5) その他 6) 閉会	【資料0】次第 【資料1】委員名簿 【資料2】観光財源の用途決定組織（修正案） 【資料3】観光財源の用途に関する方針（修正案） 【参考資料】前回議事録

2. 観光地経営会議の進め方

※次期観光地経営計画スタート
(2026年度～2035年度)

2-2 観光地経営会議のスケジュール (2023年度～2026年度)

